

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

ナットウエスト・グループ・ピーエルシー（証券コード：－）
（旧ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（証券コード：－）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A＋
格付の見通し	安定的

ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（証券コード：－）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的
債券格付	A

■格付事由

- (1) ナットウエストは英国エディンバラを本拠とし、英国を主な事業基盤とする大手金融グループ。グループ信用力は引き続き「A+」相当とみている。これは、英国における強固な事業基盤、健全な資産の質と堅固な資本基盤などを反映している。ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（NatWest Bank）の発行体格付はグループの中核子銀行であることからグループ信用力と同水準としている。ナットウエスト・グループ・ピーエルシー（NatWest）の発行体格付は破綻処理時の損失を持株会社の債権者が重点的に吸収するシングル・ポイント・オブ・エントリーを採用していることから NatWest Bank の発行体格付から 1 ノッチ下としている。ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（NatWest Markets）の発行体格付は、グループ内での戦略的な重要性がリングフェンス銀行ほど高くないと JCR ではみておりグループ信用力から 1 ノッチ下としている。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大の影響から、グループの資産の質や業績が 20 年に悪化した。現状では感染拡大前の状況まで改善している。また、資本基盤も引き続き高水準を維持している。ロシア向けのエクスポージャーは僅かで直接的な影響は限定的。主な事業基盤である英国経済は感染拡大の収束による経済活動の再開から回復する一方、ロシアによるウクライナ侵攻の間接的な影響から足元では下方圧力がかかっている。先行き追加的な貸倒引当金の繰入が必要となる可能性があるが、収益により充分吸収可能な範囲内に収まると JCR ではみている。他方、感染拡大の影響から消費者行動の変化やデジタル化が急速に進む中、モバイルバンキングでは競争がさらに強まっており、今後の収益に与える影響を注視していく。
- (3) 英国の 4 大銀行グループの一つであり、引き続き強固な事業基盤を維持している。事業セグメントは、21/12 期までリテールバンキング（RB）、コマーシャルバンキング（CB）、ナットウエストマーケッツ（NWM）など 7 部門から構成されてきた。22/12 期第 1 四半期からは CB、NWM、RBS International がコーポレートアンドインスティテューショナル（C&I）に統合され、事業セグメントは RB、C&I、プライベートバンキングの 3 部門に再編された。RB は英国のリテール銀行業務を主に個人に提供。英国における市場シェアは、個人口座数、住宅ローン貸出残高など緩やかに上昇、使用頻度の高いデジタルバンキング利用者数は 970 万、モバイルアプリ利用者数は 830 万を保有。C&I は中小企業や大企業を対象とし、銀行業務、NatWest Markets

を通じた投資銀行業務を提供し、企業口座数は英国市場でも高いシェアを保持している。この他にも子銀行を通じてプライベートバンキングを展開している。事業計画では、目標重視型の銀行への転換を図るとともに、アイルランドからの段階的な撤退、NatWest Markets の事業転換など見直しを進めてきたが、おおむね完了している。また、IT や AI を活用したデジタルバンキングを積極的に展開している。

- (4) 21/12 期のグループ連結の部門別総収益構成比は RB、CB がそれぞれ 4 割程度を占めるほか、地域別では英国が 9 割以上と集中。業績は 20/12 期は感染拡大の影響から、多額の貸倒引当金を繰り入れたことから税前損益は小幅な赤字となったが、21/12 期には貸倒引当金の戻入などから感染拡大前の水準を回復している。総収益が横ばいとなる中、経費は抑制され、貸倒引当金も 28 億ポンドとほぼ前年並みの黒字を確保。税前利益は経済状況の改善などから貸倒引当金が 13 億ポンドの戻入となったことを主因に 40 億ポンドを計上。経費の削減は計画通り実施されている。
- (5) 資産の質は感染拡大の影響からやや劣化したが、足元では感染拡大前の状況まで改善している。21/12 期末の総資産は顧客貸付 46%、現預金など 23%、デリバティブ 14%、トレーディング資産 8%、その他資産 10% から構成。顧客貸付残高は約 9 割が英国に集中している。住宅ローンが貸付全体の 5 割を占めるが、その他は産業別に分散されている。比較的信用リスクが高い商業不動産は 4%、クレジットカード/消費者金融は 4%と小さい。住宅ローンと商業不動産の加重平均 LTV も 54%、50%と前年から変わらず引き続き低位に抑えられている。大口与信の集中リスクも小さい。20/12 期末に与信残高に占める IFRS9 に基づくステージ 2 債権が大幅増加するなど資産の質がやや劣化したが、21/12 期末にはほぼ感染前の水準まで縮小したほか、ステージ 3 債権も僅かにとどまっている。このほか、レベル 3 資産の保有も僅かで、のれんも大半が英国事業である。デリバティブのネットポジションも小さく、主に顧客に対するリスクソリューションが中心。トレーディング資産はリバースレポ、現金担保付のデリバティブ、さらには投資適格の国債などで占められ、市場リスクも全体として低位に抑えられている。
- (6) 資本は引き続きリスク量対比で十分な厚みを有している。グループ連結の CET1 比率は 20/12 期末の 18.5% から 21/12 期末には 18.2%と僅かに低下したが、他の大手英銀と比べて高水準にある。高い株主報酬等から利益による資本の蓄積には至っていないものの、リスクアセットの大幅な削減が奏功してきた。22/12 期第 1 四半期末に CET 1 比率が 15.2%まで低下したが、規制によるリスクアセット算出の見直し、政府保有株式の買い入れなどによる。08 年と 09 年に英国政府から注入された公的資金は、その後、全て株式に転換され、NatWest は 15 年から政府からの直接株式購入や市場からの買い入れを行っており、足元では議決権ベースで政府の保有株式は 48%まで低下。政府は当初 24 年までに保有株を全て売却する方針であったが、感染拡大の影響を受け 26 年まで延期している。預貸率は 20/12 期末の 84%から 21/12 期末には英国政府による所得補償など経済対策の効果から預金が増加し 75%とさらに低下。市場からの調達も比較的少なく、預金の増加を受けて流動性も大幅に拡大している。

(担当) 内藤 寿彦・宮尾 知浩・岩崎 晋也

■ 格付対象

発行体：ナットウエスト・グループ・ピーエルシー (NatWest Group plc)

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

発行体：ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー (National Westminster Bank Plc)

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A+	安定的

発行体：ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー (NatWest Markets Plc)

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
Euroyen Fixed Rate Senior Notes Due 4 July 2022	417 億円	2019 年 7 月 4 日	2022 年 7 月 4 日	0.737%	A
Euroyen Fixed Rate Senior Notes Due 4 July 2024	83 億円	2019 年 7 月 4 日	2024 年 7 月 4 日	0.848%	A

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2022 年 5 月 27 日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：内藤 寿彦
主任格付アナリスト：内藤 寿彦
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014 年 1 月 6 日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014 年 11 月 7 日）、「銀行等」（2021 年 10 月 1 日）、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」（2019 年 3 月 29 日）として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) ナットウエスト・グループ・ピーエルシー
(NatWest Group plc)
ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー
(National Westminster Bank Plc)
ナットウエスト・マーケット・ピーエルシー
(NatWest Markets Plc)
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・格付関係者が提供した監査済財務諸表
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官 (格付) 第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル